

令和8年 新年号

仙台市

農業委員会だより

The Newsletter of the Agricultural Committee

編集・発行／仙台市農業委員会

発行日／令和8年1月1日

仙台市青葉区国分町三丁目7番1号

電話 022(214)4308(直通)

FAX 022(215)5803

仙台市農業委員会 または

で検索

クリック



謹賀新年

あけましておめでとうございます。

農業者の皆様におかれましては、日頃より本農業委員会の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は、年々深刻化する異常気象のほか、国際情勢による燃料や肥料といった生産資材価格の高騰などが、農業経営に多大な影響を及ぼしました。また、人口減少や食料安全保障の重要性が高まる中、地域農業の持続可能な発展への取り組みに関心が高まってきております。

このように、農業を取り巻くさまざまな現状に、農業委員、農地利用最適化推進委員一同、農業者の皆様の声に真摯に耳を傾け、地域農業の発展に貢献できるよう努めてまいります。



仙台市農業委員会
会長 赤間 敬

令和8年が皆様にとって、希望に満ちた素晴らしい一年となりますことを心より祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

令和7年度 観察研修会を実施しました

令和7年11月10日(月)、農業委員13名、農地利用最適化推進委員16名が参加し、「(株)ニコン・トリンブル白石オペレーションセンター」(白石市)と「(株)ガイア」(蔵王町)にて観察研修会を実施しました。

初めに訪問した「(株)ニコン・トリンブル白石オペレーションセンター」では、取り扱っているスマート農業関連製品について説明を受けた後、自動操舵システムが搭載されているトラクターに参加者全員で講師の方の同乗のもと試乗しました。

「後進時に曲がることがないので疲れない」、「作業が格段に楽になり、効率的になる」などの試乗の感想が聞かれました。



▲自動操舵システム搭載のトラクターの試乗



▲相澤代表取締役社長よりお話を伺う

農地基本台帳の登載内容の変更について

仙台市農地基本台帳に登載していました、仙台市外に所在する農地について、令和8年4月1日から登載しないことになります。

市外の農地については、農地が所在する農業委員会へお問い合わせ願います。

問い合わせ先 **[事務課振興係]**
電話 214-4308

農地法第3条の許可実績

令和7年7月から10月までの農地法第3条(売買・賃借等)の許可実績です。

月 区	7月		8月		9月		10月		計	
	件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)
青葉	1	2,793	0	0	0	0	0	0	1	2,793
宮城野	1	4,012	0	0	0	0	3	3,216	4	7,228
若林	3	39,049	4	21,712	1	1,400	0	0	8	62,161
太白	4	8,908	1	8,366	0	0	1	1,559	6	18,833
泉	3	4,315	1	2,788	2	3,574	0	0	6	10,677
計	12	59,077	6	32,866	3	4,974	4	4,775	25	101,692

仙台市

農業まめ知識④/全⑧

【仙台市内で生産されるお米】

●宮城生まれの人気銘柄米

「ひとめぼれ」

●寿司業界でも愛される

「ササニシキ」

●甘くてもちもちな食感の

「だて正夢」

●極早生種として栽培される

「五百川」

他にも、もち米の「みやこがねもち」、酒米品種の「吟のいろは」等、多種多様なお米が生産されています！

秋保環境保全米プロジェクト「稻刈り体験」

令和7年度秋保環境保全米プロジェクトの「秋保米」稻刈り体験が、10月2日(木)に太白区秋保町の秋保森安地区で実施されました。このプロジェクトは「秋保の温泉旅館を訪れた観光客に、美味しいくて安全安心なご飯を食べてもらおう」と平成21年から始まり、今回で17年目となります。

今回の稻刈りには、生産者のほか秋保温泉の旅館関係者、地元の馬場小学校4、5年生など約50名



が参加しました。当日は快晴でしたが、前日の大雨では場は田植え時のようにぬかるんでおり、参加者は泥に足をとられながらの体験となりました。

体験の前に「左手で稻株を握り、右手の鎌で刈り取る。怪我には十分気を付けて」と指導をうけ、注意深く作業を開始しました。稻刈り体験の後は昼食会があり、事前に収穫されていた「秋保米」の新米おにぎりなどが振る舞われました。炊きたての新米はつやつやで甘みがあり、参加者からは「とてもおいしい!!!」と大好評でした。

新潟市農業委員会との意見交換会を実施しました

令和7年10月15日(水)に新潟市農業委員会との意見交換会を実施しました。新潟市からは農業委員24名、本市からは赤間会長ほか8名が出席しました。

視察先に選定された理由は、本市が3ブロックで行っている「地域振興委員会」の活動を参考にするためです(新潟市は6地区の構成)。

当日は、本市における「ブロック単位での農業委員会活動」について事務局から説明を行った後、「地域振興委員会」、「地域計画」、「農地中間管理事業」、「女性委員の登用」等の意見交換を行い、お互いの実情を知ることもでき、本市にとっても大変有意義な意見交換会となりました。



農地パトロールと農地利用意向調査を実施しました



農地の保全と有効利用を進めるため、令和7年7、8月の延べ12日間で、農業委員、農地利用最適化推進委員、事務局職員により約67.6ha(622筆)の農地パトロール(農地利用状況調査)を実施しました。

パトロールの結果、遊休化しているものの農地として復元できる可能性のある土地約 16.4ha(176 筆)について、今後の土地利用の意思を確認するため、農地法第 32 条第 1 項の規定に基づく「利用意向調査書」を、対象の農地を所有している方へ 11 月にお送りしました。

この調査により、耕作の再開や農地中間管理事業を活用し、農地の利用促進を図っていきます。

全国農業新聞を購読しませんか？



令和8年度 農作業標準料金

令和8年度の農作業受委託の目安となる農作業標準料金を1月に設定し、JA仙台の広報誌「JAせんだい」2026年3月号に折り込む予定です。

また、ホームページにも掲載しますので、ご覧ください。

問い合わせ先 [事務課振興係]

電話 214-4353

〔事務課振興係〕
電話 214-4352

申し込み先

●発行日…月4回金曜日
●月額…700円(消費税込)
※4月から900円になります
※電子版も閲覧可能

一週間の農政の動きや現場に役立つ栽培技術・流通の情報、魅力的な農業者の取り組みを幅広く伝えるなど、農業経営発展等に役立つ紙面となっています。

全國農業新聞
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

あなたの出番です

宮城野区岡田にお住まいの
さとうよしのり
佐藤好宜さん
にお話しを伺いました。

Q 就農のきっかけは?
A 前職はリハビリテーションの仕事をしていました。実家が農家だったこともあり、12年前に農業を通じて、障がいのある方の支援をしたいと思い就農しました。

Q 作付け品目は?
A ナス、ニンジン、サツマイモ等を栽培して、主にインショップで販売しており、収穫は障

がいのある方々にお手伝いしてもらっています。

Q 就農した感想と農業の魅力とは?

A 近年は、とても暑い日が続いたり、急に大雨に見舞われたりで、自然を相手にするのは大変だと感じる一方、お手伝いいただく方々が楽しそうに働いているのを見たり、お客様から「おいしかったよ」と言われるうれしくて、充実しているなあと感じています。

Q 休日の過ごし方は?

A 子どもと遊んだり、農閑期には長期休暇を取り海外へ行ったりしています。直近ではベトナムへ「市場グルメ巡り」に行きました!



Q 今後の目標は?

A 生産技術を高め、雇用をさらに増やし、障がいのある方々の笑顔が絶えない就労環境作りを目指します。

(聞き手: 編集委員 鈴木 可和)

法人紹介

**株式会社
早坂農産**

株式会社 早坂農産をご紹介します。

同社は、青葉区大倉日向地区で「農地中間管理機構関連農地整備事業」を活用したほ場整備事業の取り組みを進める担い手として、



▲株式会社早坂農産 代表の早坂今朝美さん

令和元年に設立されました。

現在は社員3名とパート6名の体制で、水稻17ha、ネギ30a、転作そば4.5haを作付けしています。

法人設立のきっかけは、「地域農業の担い手として、永続的に地域農業を推進・維持したい」という思いからとのことです。

ほ場は、中山間地・高地に位置し、気象条件や獣害など不利な面もありますが、耕起や代かきをせず、乾いた状態の田んぼに直接種子を播く、不耕起乾田直播栽培を試験的に導入し、省力化・効率化など日々工夫を重ねながら営農に取り組んでいます。

地域の方々の協力を得ながら、各種制度を活用した人材育成にも力を入れており、今後さらなる規模拡大を目指しているとのことでした。

(編集委員長 小野寺 潔)

農業委員会事務局

青葉区二日町6-12
MSビル二日町6F
電話: 214-4308

案内図



お知らせ

◆◆お車で来庁される方へ◆◆ 本庁舎の建替工事にともない、本庁舎の駐車場は利用できません。勾当台公園地下駐車場又は二日町駐車場をご利用ください。農業委員会で来庁確認の手続きを行うことにより、駐車料金が原則90分まで無料となりますので、駐車券を必ずお持ちください。

編集後記

あけましておめでとうございます。

地球温暖化の影響でしょうか、昨年は最高気温が30度超えの真夏日が続き、体調を崩された方もおられたのではないかと思われます。

本年も、農作物の高温障害など心配ですが、熱中症に注意しながら農作業に励みましょう。

(編集委員 熊坂 茂彦)

